六夕
日刊
磐城時報

福島縣石城郡平町紺屋町十四
編輯兼發行人　岡田弘成
印刷人
印刷所　福島縣石城郡平町新田前町十四　磐城活版所
發行所　福島縣石城郡平町新田前町十五　磐城時報社
一部金武錢　一ヶ月金参拾錢
廣告料一行十四字詰金五十錢
▲日刊（日曜、祭日）休刊

縣下酒造品評會
九月平町に開く
期日繰上方を陳情

石城酒造組合幹部會は六日午後一時から平町組合事務所に開き來る十月平町に開催する縣下清酒の品評會について協議したが九月には二十日から三日間酒造夏期講習會が平町に開かるゝ筈であるため縣下の清酒品評會も之と同時に開くべく期日を繰上げて貰ひ度いと縣に陳情する事になつた、因に同品評會は出品數百点、會場に元郡役所を充てる筈である。

好成績な平税務署

平税務署管内本年度酒造税の賦課人員は四十九名で第一期分の納期は四月三十一日であつたが其納税成績を見ると三十一日までに税額二十萬一千六百四十一圓が全部完納された、石城郡地方は磐銀の休業中金融の圓滑を缺き各酒造家が二十萬圓余の融通に相當苦心し納期までに完納されるか否かは全く疑問とされてゐたのが此結果を見たので税務署當局では此好成績に喜んでゐる、石城郡内で酒造税を一番多く納めるのは馬目太平氏の二萬二千七百圓、鈴木平司氏の二萬六百八十圓、小池留平氏の一萬圓等で例年の納税率に比しても不景氣であつた今年が一番良好であつたと云ふ奇現象を呈した。

石城販賣利用組合視察

産業組合中央金庫參事塩田龜藏氏は六日來平し石城販賣利用組合の事業經營狀況を視察した。

氏子問題解決
金成村長斡旋

石城郡錦村には縣社熊野神社の外最近小社より村社に昇格した鬼越神社あり同村六倉、長子、富津、江原の四大字中鬼越神社鎮座の地元なる江原部落では兩社の氏子として奉仕する負擔に堪へぬといふ處から氏子百七十名連署の上縣社々務所に脱退の届け出をなし紛爭中であつたが金成村長の調停により江原では縣社基本金として三百圓を三ヶ年に奉納し縣社の負擔を脱退する事の條件にて圓滿解決したと。

平町の模範兵除隊

平町胡摩澤くめ養子内田勝治氏は十五年徴集豫備上等兵看護卒として召集され此程除隊となつたが、除隊に際する成績調査表によれば

同氏は品行方正態度謹嚴志操堅確、衆の模範人物で責任觀念旺盛で終始一貫誠實であつた。

と激賞されてゐる。

植田町で公會堂建設

植田町では一般多衆會合の場所なく不便を感じてゐた折柄今回同町有志は工費一萬五千圓を投じて理想的な公會堂を建設すべく計劃中である。

物騒な飼犬
三名に咬みつく
平署で撲殺

平町字三町目鋭成長男小齋榮助(一二)は去る三十一日午後二時頃同町五丁目街路を通行中突然後方から犬が來つて同人の右足に嚙みつき全治三週間の傷を負はした騒ぎに平署では其飼犬の主を調査した處同町理髪業鈴木賀方の犬と判明狂犬でないかと調査したがそれらしい徴候もなかつたが同犬は更に南町金之助長女阿部まつ(十四)同五丁目遠藤忠三郎方雇人平山初吉(二二)の兩名にも嚙みついて傷を負はした事判明したので平署で之を撲殺する事になつた。

平町の物價

平町に於ける五日現在の日用品物價如左
▲白米三十三錢、三十二錢、三十一錢▲白麥十九錢▲平麥十七錢▲味噌八十錢▲醤油六十錢▲清酒一圓▲木炭三十二錢、二十五錢、二十七錢▲砂糖十五錢、十三錢▲豚五十錢、三十錢▲牛六十錢、四十錢

依頼された取立金横領

平町田町料理店鳥勇事郡トメは平町二丁目某に對する飲食代百余圓の取立方を上遠野村古川甫に依頼した處古川は平町三丁目東北興信所に依頼し内金二十圓を取立てたのを古川は鳥勇に渡さぬので六日平署に告訴された

書面で情死未遂
小包で毒藥を送る
娘の實父が發見

上遠野村字宿佐川まつ(二一假名)方に小包が配達されたので實父が怪しんで開いて見ると中にモルヒネ瓶があり同封の手紙には

この小包が配達された時自分は死んでゐるからお前もこの藥で死んでくれ

と認めてあり、驚いて植田警察署に届け出たので取調べた處まつの情夫なる同村字根岸松本一次(二二)が發送したもので右藥品は燒明礬と判明した、兩名は三年前から戀を語り夫婦約束までしたが女の兩親が許してくれないので自殺を計り一次は自宅にあつたモルヒネ瓶入の燒明礬を本物のモルヒネと思ひ込んでのんだが之は人体に害を及ぼさぬものであつた。

平魚市場募株
成績良好を豫想

加納五郎氏その他の發起主唱に係る平魚市場は資本金十二萬圓の株式會社魚市場はこの程愈々株募集に着手し二十日頃募集を打切つて來月十日頃拂込をなし同月下旬創立總會を開催する豫定であるといふが、一般から事業内容を有望視されてゐるので募株成績良好なるものあるべし

消防組に金馬簾授與

磐崎村消防組では昨年八月中藤原地内に傳染病舍を新築したが之に通ずる道路は畦道で交通不便であつたゝめ去る四月中組員二百六十三名が出動し三百五十間の道路を改修した、神谷村消防組では大字塩地内に本年一月三日から三月十五日まで工費五百圓で鐵骨火見櫓を建設した上各戸毎に門札を掲げしめたので何れも金馬簾を授與する價値あるものとして平警察署では授與方を縣に申請した。

スポンヂ野球戰

平町スポンヂ野球試合は五日午前十時から平第一小學校に開いたが成績左の如く來る十二日に試合を繼續する事になつた。

南町	5—2	平鐵道
記者團	12—6	二葉舍
北辰白銀	9—4	エンジン
田町	3—3	平商業

（延長十一回ドロンゲーム）

村を追はる
（その十）
外山生

お代官樣、庄屋樣から、戸長樣、村長樣に、御陣屋、戸長役場から町村役場に變つた、自治制布かれて四十年、村人お互に一人前の人間として權利を行使し、義務を負ふ處の自治体が生れて以來幾變遷、村の政治の跡を顧みて感慨無量ならざるものはあるまい。村の行政廳である所の役場、その小使室に大圍爐裡を眞中に村長樣を始めとして頭のハゲた村會議員のお歴々がグルりと車座にすはり込み鰯の頭で、どぶろくを酌みながらヤロン、トロン、トロンで村の政を議しておられたのも、なんと舊いことではない、而も其の頃の方が仕事が出來ないまでも村方の取締もよくついて至つて平和であつた。洋服の議員樣が、議長……何番、本議員は「議案第何號學校增築の件に關する村當局の詳細なる說明を求むるものである、抑も……云々」とやりかけて、議會の形式は稍や整つては來たが段々村に風波が立ち始めた、役場派、非役場派と、はつきり決らんまでも何となく後ろに糸が繋がるやうに見えるやうになつた。村會は××黨、××黨の出店の樣になつた、我黨村長が出來た頃は、大切な車馬道に橋が立ち腐れて「危險車馬通行止」の立札がたち學校に雨漏が生じて可愛い自らの孫や子弟が難儀をせねばならぬ因果となつた。以前役場の小使室でどぶろく藥鑵を中心に、村會が開かれた頃は、小使親爺も村長樣も五分五分に酒も吞めば村政も談じたものだ、尤も睦さが嵩じて村長樣のハゲ頭に小使おやじの手が上つたこともないではないが……一脈いゝ處があつたものだ。議長何番の村會から我黨村長が出て役場は何黨の出店、出張所の樣になりかけて、小使のはてまで金輸解禁、教育問題曰く何々と中央政治を談じ村政を云々する樣になつて役場と村人は自治体としてつながるよりも黨と黨員としてのそれの方が密にして深くなつた樣だ。殊に歴代の村長につかへて、役場の仕組、村政の表裡は申すに及ばず、出てゝは村の隅から隅まで日々の出來事は何々橋板一枚とれたことから、いやしくも事大小となく村長より委しく、某家は家族何人誰と誰と〳〵より村人戸毎の財政、人別の氣質まで呑み込んだ古狸、何黨支店擴張員として活動せしむるにはもつてこいの人物……此の邊にお氣がつかれず手ぬかりでもあれば早速村長樣が損長樣に、區長樣は苦長樣になりうることは疑ひなし、恐れざるべけんやと云ふわけだ。兎に角、家柄政治から頭のハゲた老人政治に、老人政治より中老の議長何番政治に移つて村方には文化的建設が行はれて村財政が膨脹した、何黨村長時代に學校が增築された（つゞく）

かつ子嬢の死体發見

去る二日午後三時頃豊間村二見ケ浦附近で激浪に浚はれ行衛不明となつた回春園長川井重之氏令嬢の死体は六日午前八時豊間村琵琶崎下海岸漂流中を發見された（既報地曳網で發見した旨は誤報）

▲内郷の賭博

内郷村大字御厩木賃宿三浦長二郎（四九）

◎目出度（時間六分）

一、目出度〳〵の若松様よ枝も栄ゆる葉も茂る、茂るよナー

一、目出度〳〵の三つ重なれば天の岩戸も押し開く、開くよナー

一、お前百迄私しや九十九まで共に白髪の生ゆるまで、までよナー

◎盆唄（時間七分）

一、私しや磐城の二つ箭山の落つる木の葉の下に住む

一、音に聞えた赤井嶽薬師、磐城城下を一にらみ

一、鏑泉の玉山茸の名所、今ちや石の出た日の出石

一、切れたわらじを粗末にするな、お米育てた親ぢやもの

一、天上とぶ鳥物言ならば、便り聞いたり聞かせたり

一、日の出合と相定めたが、月がよる出て森のかげ

餅搗歌（時間四分）

一、揃ふた〳〵よ餅つきや揃ふた、稲の出穂より向よく揃た

一、餅もつけたし寝ごろも来たし、家の親達わら〳〵と

◎ジャンガラ念佛（時間十分）（太鼓と合調南無阿彌陀佛）

燈臺の涼風

（中）　T生寄

やつと正門へ出る。立派な建て物だ、六棟位になつてゐるきつと燈臺守の住宅もあるんだらう。いよ〳〵燈臺の入口に立つ、明治三十二年十二月竣工と書いてある下駄や靴で十足位もうある、急いで上がる造はちよつと見ては簡單だ眞中に三かゝい位の鐵筋コンクリートの大柱が立つてゐてその廻りを長さ三尺幅一尺高さ五寸程の花崗岩の石段が廻り〳〵園んで上つてゐるんだかへりにかぞへて見たら百十二あつた、石段が盡きると鐵の格子になつてゐた十階位のが二つだ、それでやうやく頂上に着いたのだ、私が上ると共に、傍らにゐた技手サンが上つて來た處をしめてしまつた、これで完全に下との聯絡が斷たれたわけだ。

それから説明を聞く、直徑二間の圓のこの部室が、燈臺の主要部なのだ、部室の中央頭上五尺の所に大レンズの燈が旋廻してゐる（今わざ〳〵旋廻して見せたのだ）レンズの中に二千燭光の電燈がついてゐる、二千燭光ではあるけれど精巧なること大レンズの屈折のために、實にその光百五十萬燭光となるさうだ。偉大なる學問の力よと讃賞した。

御禮

過日出火の際は多大の御盡力を賜りまして難有御禮申上げます、御蔭様で調理場も理想的に改造客席も新らしく完備いたしましたので開店いたしました皆様の御同情に對し萬一の御報恩にもと

出前の迅速
家族的接待
尤も美味な調理

に格段の御勤めをいたしまして冷たい料理も種々調理して御座いますから、御涼みがてら是非御はこびを御待ちいたします。

平町紺屋町（縣社通り）
美味で評判の
イチ手食堂
電話四六〇番

方で四日午後一時頃同村上原五郎（五八）四倉町佐藤常松（五五）が集り現金賭け花合せを行つてゐるうち平署猪狩刑事に檢擧された。

放送する
磐城民謡の歌詞

既報大野村青年團で來る十日東京放送局から放送する磐城民謡の歌詞左の如し。

一、今宵一夜は浦島太郎、あけて口惜しや玉手箱

一、磐城玉山高野の湯でも戀の病は治りやせぬ

一、山で赤いのはつゝじに椿、咲いてからまる藤の花

一、泣いて呉れるな出船の時は、冲でろかいが手につかぬ

一、踊り見るとも立見はするな此處は立見の場所ぢやない

◎磐城甚臺（時間五分）

一、磐城七濱、夕の出た所、豊間の燈臺小名の濱

教授

裁縫　奥田式及び水引細工
華道　古遠州生花、小原流盛花
茶の湯　裏千家

平町白銀町（平劇場前）
高橋光春
電話六三八番

有給見習職工募集

一、募集人員　三名
一、年令十六、七、八才
一、學歴　尋卒又ハ其ノ程度

右希望者ハ自筆履歴書持參ー委細面談

平町新田前
電話七二三番　丸ほん家具製作所

一、小店員數名募集ス

平町三町目
電話三五九番　丸ほん家具店

ツルヤ洋品店の
夏の子供服陳列會
イタヅラ着　三十錢より
ボイル服　一圓四十錢ゟ
富士絹服　二圓より
ツルヤ
御自由御覽になられる樣店内に陳列
特に御勉め品霜降學生服
壹號　一圓十錢
貳號　一圓
參號　九十錢
電話一四〇番　平四丁目

農藝用消毒殺虫藥品
養蠶用寒暖計
の御用は
平町五丁目角
山野邊藥局

うなぎについて
——御客樣へ謹告——

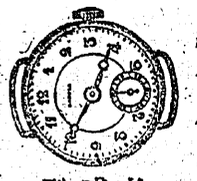
弊店で鰻料理に使用する鰻は本場燒津產以外は絶對に用ひてゐませんが近頃同業者の某氏は、弊店の鰻は平地方產のもの、如く宣傳してゐる由でありますがそれは惡宣傳に過ぎず弊店の鰻は正眞正銘燒津產の優良なるものに相違ありませんから御客樣各位は之等惡宣傳に迷はされず相變らず御贔負御引立の程懇願致します

平町南町平舘隣（電話四二四番）
燒津鰻
御料理　魚榮

拾型　銘々石入

保險付
拾八金側拾型バリス金支エトウ
特價　拾壹圓
クローム側拾型
特價　五圓八拾錢

絶對他の追從を許さぬ破額品!!


拾貳型　銘々石入

銀側拾貳型バリス拾石入
勞働用に丈夫一式
特價　五圓九拾錢

平町三丁目
電話一九番
大谷時計病院

大衆向の實用腕時計

赤心堂病院
平町字田町（電話四七頁番）

外科　外科一般、耳鼻科、花柳病科
婦人科　産科、婦人科
內科、X光線科